

# フィリピン土木学会(PICE)年次大会参加報告

松田光弘(正会員 土木学会事務局)



写真1 開幕式 PICE理事と濱田前会長 (Photo:Courtesy of PICE)

土木学会(JSCCE)と協力協定を結んでいるフィリピン土木学会(PICE: Philippine Institute of Civil Engineers)からの招聘を受けて、PICEの年次大会(33rd National Convention)に参加した。

会場となったセブ市は、フィリピン中部のセブ島の中央に位置し、人口約70万人を有する大都市で、マゼランが1521年に上陸した地として有名である。セブ・リゾートは、隣のマクタン島が中心である。

## PICEについて

PICEの総会員数は、2007年11月16日現在77476人。JSCCEは10月31日現在で38173人であるから、PICEはJSCCEの2倍の会員数を抱えている。PICEのレギュラー会員(JSCCEの正会員相当)になるためには、

the Philippine Regulation Commission (PRC)の土木技術者ライセンス試験に合格し、登録されている必要がある。JSCCEと比較して入会のハードルは高い。それでもこれだけの会員がいるということは、「Engineer」を名乗るためにはこのライセンスをもっていることが必須という事情の表われであろう。

## 開会式(11月22日)

開会式はCICC(セブインターナショナルコンベンションセンター)で行われた。CICCはASEANサミットの会場となった場所であり、安倍晋三前総理大臣も来訪されている。JSCCEからは濱田政則前会長と同行者の伊東淳氏(早稲田大学/セーバース・地震防災工学研究所)が開会式に参加した(写真1)。来賓として、セブ州のGarcia知事のスピーチがあった。

## 濱田前会長特別講演(11月22日)

開会式に引き続き、濱田前会長の特別講演が行われ、約2000人が参加した(写真2)。講演内容は、近年アジアに地震・風水害が集中してきているなかでの、災



写真2 濱田前会長による特別講演 (Photo: Courtesy of PICE)



写真3 Abergas PICE会長から濱田前会長へ記念楯の贈呈 (Photo: Courtesy of PICE)

害軽減に向けた土木技術者の役割についてであった。講演の後、Abergas PICE会長から濱田前会長に記念の楯が贈られた(写真3)。

## フェロシップナイト(11月22日)

会議終了後、懇親会としてフェロシップナイトが開催された。Abergas会長をはじめとし、会議



写真4 フェロシップナイト (Photo:Courtesy of PICE)

に参加したPICE会員全員が参加したようで、2000人は超えていたと思われる。食事はフィリピン料理で、どこか中華風とスペイン風のミックスという感じでもあった。食事の後はショーで、まずはセブ島の民族舞踊に始まり、スペイン統治時代を思わせるフラメンコ、そしてアメリカ統治時代を思わせる現代風社交ダンスと歌が披露された写真4。

#### 国際円卓会議(11月23日)

PICEのほか、中国土木水利工程学会(台湾)、オーストラリア工学会、アメリカ土木学会フィリピン支部、JSC Eが参加して、国際円卓会議が開催された(写真5)。会議のテーマは「Sustainable



写真5 国際円卓会議 (Photo:Courtesy of PICE)

Infrastructure Development(持続可能なインフラ開発)」で、濱田前会長をはじめ3名のプレゼンテーションがあり、その後討議に移った。濱田前会長は、日本が戦後の災害から高度経済成長を経て現在いかに環境に取り組んでいるか、開発途上にあるアジア各国への提案も含んだプレゼンテーションを行った。

討議では、東南アジア各国のインフラの現状と問題点、今後の持続可能な開発のあり方、地球温暖化を中心とした環境対策などについて議論された。日本のような先進国と開発途上にあるアジア各国での環境対策についての差異が感じられた。濱田前会長は、今回のラウンドテーブルにはぜひ中国



写真6 PICEへの記念品贈呈

とインドを参加させようと提案し、会議は終了した。

#### 閉会式(11月24日)

石井会長は11月23日夜にセブに到着したため、PICE年次大会への参加は最終日の24日のみとなった。

閉会式では、石井会長から、年次大会の成功を祝うスピーチを行った。現会長のAbergas氏はこの日の朝に急遽マニラに戻ることとなったため、1日前にPICE次期会長に選出されたWilly T. O氏に対し、石井会長からJSC EからPICEに対する記念品が贈呈された(写真6)。

#### 第10回全国土木学生カンファレンス(11月24日)

PICEには約1万3千人の学



写真7 学生に囲まれる石井会長

生会員がおり(JSC Eの2倍以上)、152の学生支部(Student Chapter)を有している。第10回全国土木学生カンファレンスは、PICE年次大会の一環として開催されている。石井会長は来賓として招待され、「Restoration of Environment after the High Economic Growth in Japan」と題して講演を行った。講演後は、聴講した学生たちの多くがステージ前に押しかけ、石井会長と一緒に写真を撮っていた(写真7)。

#### PICEの「びびり」三題

##### (1) 富くじ

PICEのビルディングを建てるための資金調達目的で、富くじが行われていた。チケット1枚が3000ペソ(日本円で約8000円)、商品は1等がなんとコンドミ

ニウム! 2等は日本車! 3等はノートパソコン! 抽選は年次総会の中で行われた。当選者がうらやましい。

##### (2) 自動車行列(Motorcade)

市民にPICEの存在をアピールするために、車の前面に学会の名前を書いた横断幕をつけて、自動車行列を支部ごとに行っている。

##### (3) ミスコンテスト(Mutya ng)

PICEの支部では、女性技術者を対象としたミスコンテストが行われている。年次大会には女性技術者も多数参加している。

#### 大会に参加して

PICEの活動は活発であり、特に学生会員の熱心さを感じた。1997年のACC(C(アジア土木学協会連合協議会)設立以来、JSC EとPICEは友好関係が進んでいるが、今回の訪問でそれがより深まったであろう。JSC Eが現在計画しているフィリピン分会設立に対しても、PICEからは理解をいただいており、今後のさらなる交流拡大を期待したい。